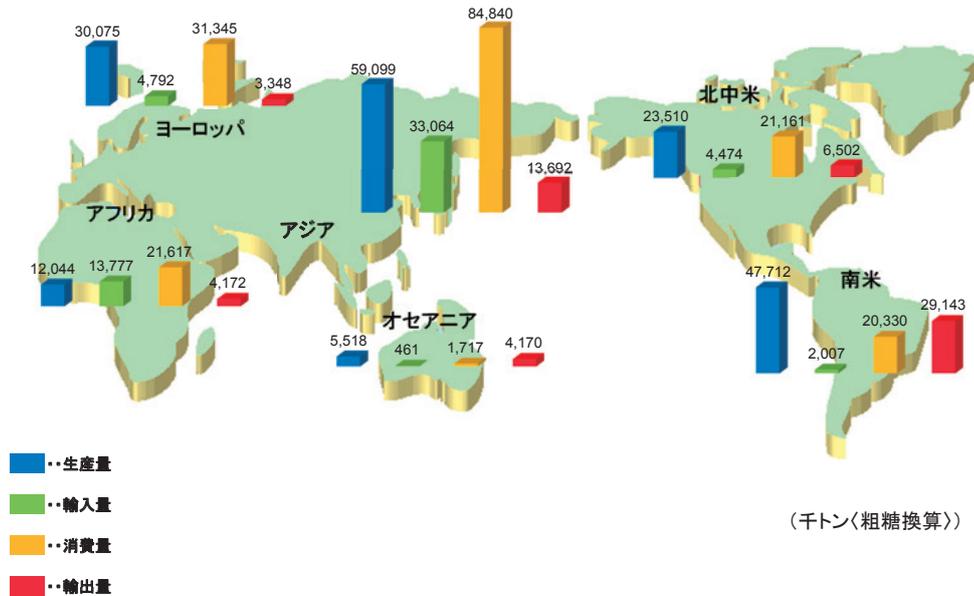


砂糖の国際需給

調査情報部 佐々木 由花

1. 世界の砂糖需給 (2017年3月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2016/17年度予測値)



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2017」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)
 注1：年度は2016年10月～翌9月。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,518	151,603	49,849	161,842	50,974	60,155	37.2
2012/13	64,079	184,166	59,150	171,636	61,545	74,214	43.2
2013/14	74,214	181,496	58,461	175,802	59,205	79,164	45.0
2014/15	79,164	180,683	58,414	178,723	59,548	79,990	44.8
2015/16	79,990	174,678	62,976	180,028	66,611	71,005	39.4
2016/17 (2016年12月予測)	69,832	177,435	58,541	183,701	59,849	62,258	33.9
2016/17 (2017年3月予測)	71,005	177,958	58,575	181,009	61,027	65,503	36.2

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2017」
 注1：年度は国際砂糖年度(10月～翌9月)。
 注2：2013/14年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度は予測値である。
 注3：期末在庫量は(期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量)である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2017年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2017年4月号をご参照ください。

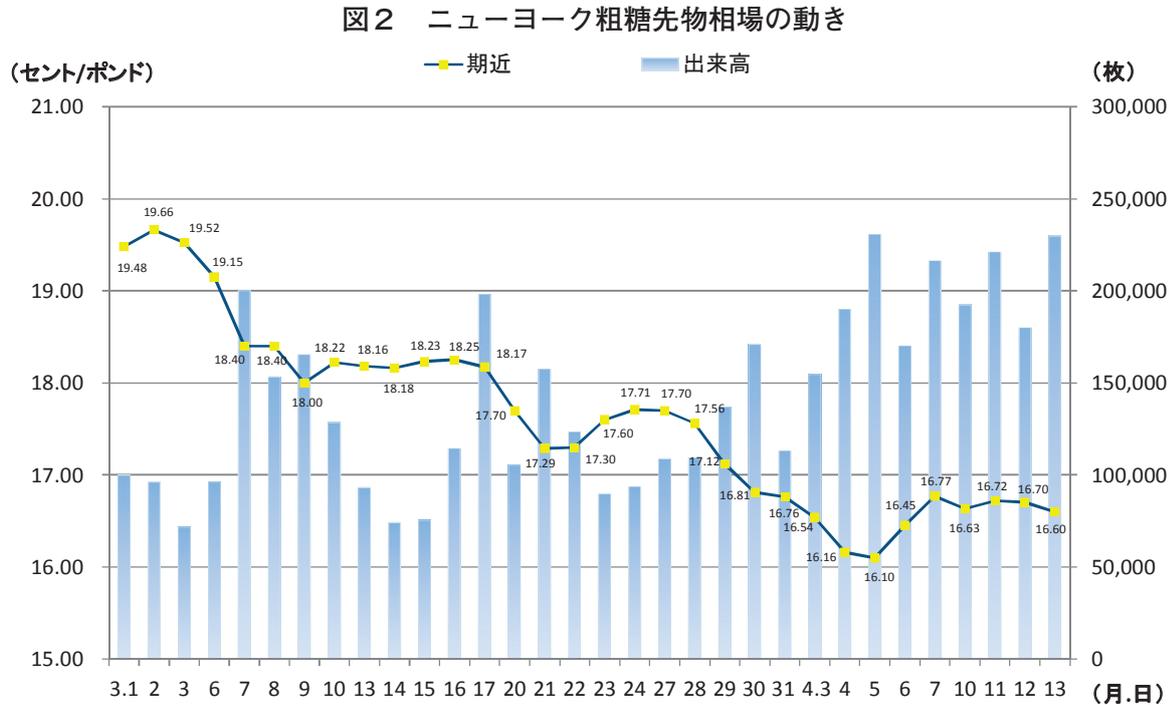
「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001466.html

「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001467.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き (3/1 ~ 4/13)

～供給過剰予測などから、1ポンド当たり16セント台まで下落～



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)

ニューヨーク粗糖先物相場（期近5月限）の2017年3月の推移を見ると、2日に1ポンド当たり19.66セントまで上昇したものの、その後反落し、7日に同18.40セントの値を付けて以降、18セント台で推移した。この背景には、インドで国内砂糖価格が生産量の減少により上昇している一方で、同国政府が輸入関税の撤廃は当面はないとの見解を示したことや、メキシコ政府が輸出認可を取り消した米国向けの砂糖を市場に放出する可能性があることなどがある。さらに、ブラジルのサトウキビ生育状況が好調なことを受け、世界の砂糖供給が2017/2018年度に過剰に転ずるとの見通しが強まり、

21日は同17.29セントに値を下げた。24日には、同17.71セントに上昇したものの、再び、世界の砂糖需給が緩むとの予想やサトウキビ収穫期におけるブラジルの天候が良好なことなどが押し下げ要因となり、31日には同16.76セントとなった。

相場は、4月に入ってから続落し、5日には同16.10セントまで値を下げたものの、米軍によるシリア攻撃の影響で原油先物相場が上昇したことなどを受けて、7日は同16.77セントとなった。しかし、2017/18年度は世界の砂糖需給が緩むとの見通しから弱含みで推移し、13日には同16.60セントとなった。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年4月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：915万ha（前年度比0.4%増）

生産量：6億8475万トン（同0.4%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4077万トン（同0.4%増）

輸出量：2870万トン（同0.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2017年4月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれたため、911万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加が見込まれるものの、サトウキビの新植が進まず単収は低下するため、生産量は6億8195万トン（同2.5%増）と、わずかな増加にとどまると見込まれている（表2）。

一方、国際砂糖価格の上昇により、企業がサトウキビを砂糖へ仕向ける割合が増加していることに加え、製糖歩留まりが向上していることなどから、砂糖生産量は、4060万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、同15.4%増）とかなりの増加が見込まれる。こうした砂糖の増産に伴い、輸出量は過去最高の2874万トン（同14.4%増）とかなりの増加が見込まれる。

また、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注1）}が発表したブラジル中南部地域の生産実績報告によると、2016/17年度のサトウキビ圧搾量は、6億714万トン（前年度比1.7%減）とわずかに減少したものの、砂糖生産量は3563万トン（同14.1%増）とかなり増加している。これは、サトウキビ1トン

当たりの産糖量が58.7キログラム（同16.1%増）と大幅に増加していることや、企業が砂糖への仕向け割合を増やしているためとみられる。なお、同報告によると、エタノール生産量は、2565万キロリットル（同9.1%減）とかなり減少した。また、輸出量も含めたエタノールの販売量は、2597万キロリットル（同11.3%減）となった。このうち、含水エタノール^{（注2）}の国内販売量は、在庫量の減少などに伴いエタノール価格が高騰したため、1433万キロリットル（同17.4%減）となった。

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、915万ヘクタール（前年度比0.4%増）、生産量は6億8475万トン（同0.4%増）と、ともに前年度並みにとどまると見込まれている。このため、砂糖生産量も、4077万トン（同0.4%増）と、前年度並みにとどまると見込まれるが、期首在庫量が低水準にあることから、輸出量は2870万トン（同0.1%減）にとどまると見込まれている。

政府は3月17日、2010年に撤廃したエタノールの輸入関税（20%）の再導入を検討することを発表した。この背景には、エタノール生産量の減少などにより、米国からのエタノール輸入量が急増し、国内で製造されたエタノールの流通量が抑制されていることがあるとみられる。例年、エタノール取引

価格は製糖期間の端境期において上昇するが、1月中旬から下落していたことから、北東部の砂糖エタノール製造企業は、国内産業を保護するよう政府に要請していた。

(注1) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

(注2) 自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

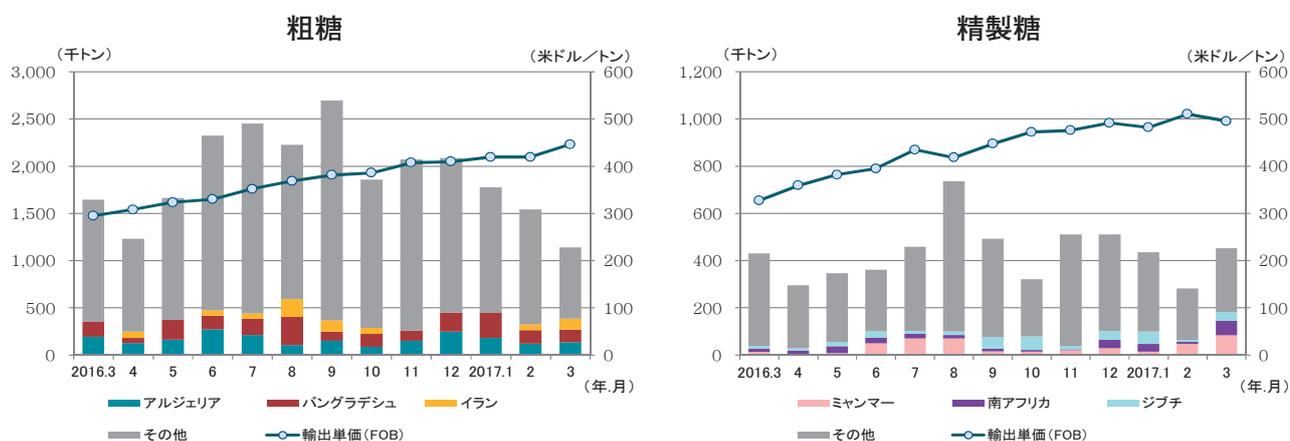
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (3月予測)	2016/17 (4月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,811	9,004	8,655	9,111	9,111	5.3	9,148	0.4	
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	681,952	681,952	2.5	684,748	0.4	
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,600	40,600	15.4	40,766	0.4
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	12,000	12,000	11,850	▲ 1.2	11,800	▲ 0.4
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,700	28,740	14.4	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,296	2,543	613	513	623	1.7	890	42.8
	期末在庫率	18.2	20.5	5.1	4.3	5.3	3.0	7.5	43.4

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, April 2017」

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）

生産量：3億3193万トン（同7.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2200万トン（同19.6%減）

輸出量：162万トン（同60.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億3193万トン（同7.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。さらに、砂糖生産量も、2200万トン（同19.6%減）と、製糖歩留まりの低下が見込まれ大幅な減少が見込まれている（表3）。

インド砂糖製造協会（ISMA）は3月初旬、2016/17年度の砂糖生産見通しを発表した。これによると、1～2月にかけてマハラシュトラ州やカルナタカ州などで当初の予想以上に単収が低下していることなどから、同年度の砂糖生産量は、1月下旬発表の生産見通しより精製糖換算で100万トン下方修正され、2030万トンと見込まれている。また、ISMAが発表した2016年10月～翌2月の生産実績報告によると、砂糖生産量は、1625万トン（前年同期比18.5%減）となった。地域別に見ると、サトウキビ栽培面積が拡大し、最大の生産州になると見込まれているウッタルプラデシュ州では625万トン（同16.7%増）と大幅に増加した（図3）。一方で、マハラシュトラ州やカルナタカ州は、それぞれ412万トン（同41.7%減）、205万トン（同43.3%減）と大幅な減少となった。これは、干ばつの影響でサトウキビ生産量が減少し、製糖工場が、原料不足から早期の操業終了を余儀なくされているためであり、マハラシュトラ州においては過去10年間で最も少ない生産量となった。

中央政府は、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰していることを受け、国内市場での砂糖の流通量を増やし、価格の安定化を図るため、2016年6月中旬以降、砂糖の輸出（粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除く）に対し、輸出関税（20%）を導入している。さらに、製糖企業に対する砂糖在庫量の上限（注）を2017年4月まで設定している。これらにより、砂糖輸出量は、162万トン（前年度比60.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、砂糖輸入量は、212万トン（同11.1%増）とかなりの増加が見込まれており、同国は純輸出国から純輸入国へ転ずる可能性が高まっている。

中央政府は4月、6月30日までに輸入される粗糖50万トンについて無税での輸入を許可することを公表した。当該措置は3月中旬には当面実施しないとしていたが、干ばつにより砂糖生産量が大幅に減少し、生産量が消費量を下回ると見込まれること、また、マハラシュトラ州の製糖企業らによる再輸出用粗糖100万トンの輸入申請が行われたことなどをを受けて実施されることとなった。

（注）中央政府は、貿易業者に限定していた砂糖在庫量の上限定を製糖企業にも適用することとし、各製糖企業が保持できる在庫量は、2016年9月末時点では2015/16年度の砂糖生産量の37%、同年10月末時点では同24%を上限と設定していた。

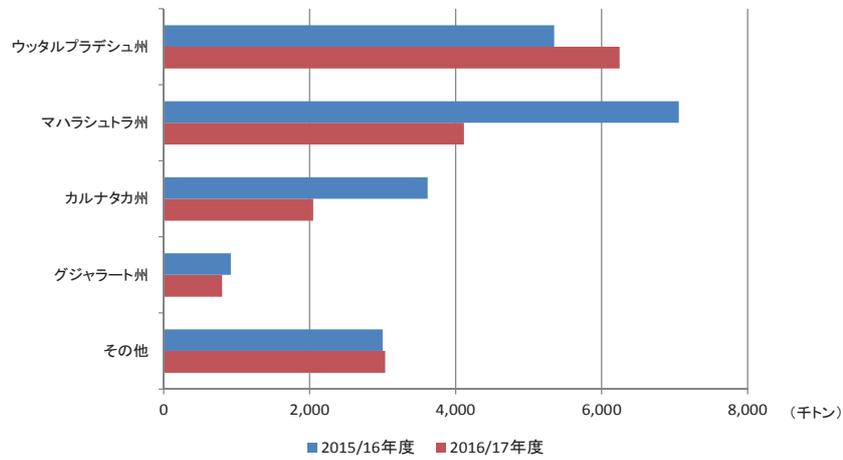
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (3月予測)	2016/17 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	331,926	▲ 7.5
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,372	22,500	▲ 19.6
	輸入量	1,349	1,303	1,904	2,128	11.1
	消費量	26,295	27,842	27,826	28,200	▲ 5.5
	輸出量	2,742	2,608	4,105	1,458	▲ 60.5
	期末在庫量	8,223	9,692	7,036	2,006	▲ 54.2
	期末在庫率	31.3	34.8	25.3	7.1	▲ 51.5

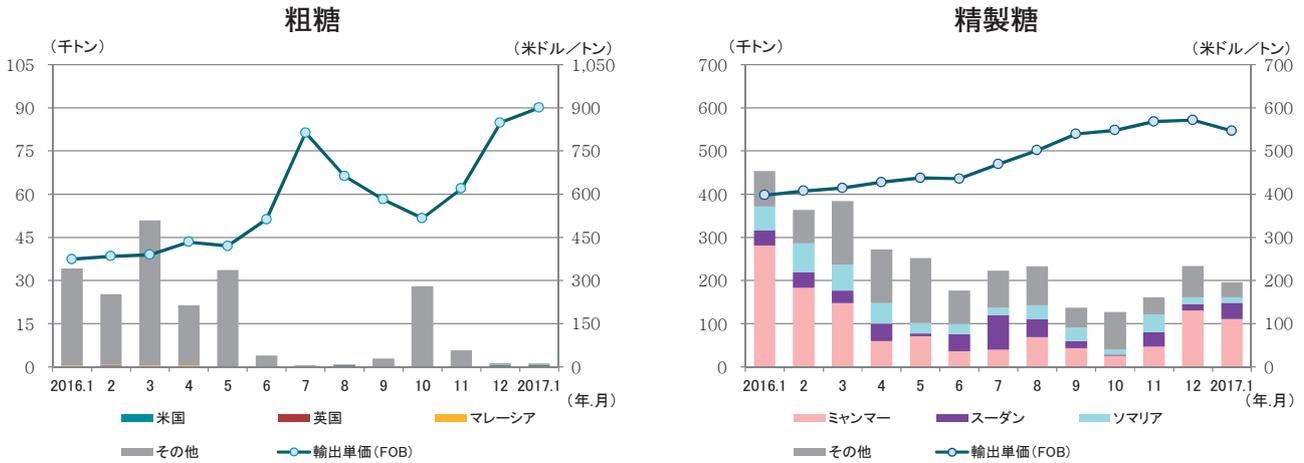
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, April 2017]

図3 インドの地域別甘しゅ糖生産実績 (10月～翌2月の生産量)



資料：ISMA
注：精製糖換算。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha（前年度比10.0%増）・15万ha（同10.0%増）
生産量：1億2652万トン（同7.9%増）・771万トン（同5.0%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】

生産量：1069万トン（同13.0%増）
輸入量：415万トン（同33.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量が1億2652万トン（同7.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。これは、最大生産地域である広西チワン族自治区や海南省における栽培面積の増加に加えて、良好な生育状況が要因である（表4）。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール（同10.0%増）とかなり増加し、生産量は771万トン（同5.0%増）とやや増加が予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、1069万トン（同13.0%増）とかなりの増加が見込まれている。

また、中国砂糖協会（CSA）が発表した2016年10月～翌3月の生産実績報告によると、砂糖生産量は精製糖換算で822万トン（前年同期比2.8%増）とわずかに増加した（図4）。これは、サトウキビおよびてん菜の栽培面積拡大により、甘しゃ糖が719万トン（同0.5%増）、てん菜糖が103万トン（同22.2%増）と、ともに増加したことによる。

なお、CSAが先に発表した2016/17年度砂糖生産見通しによると、精製糖換算で、甘しゃ糖が896

万トン（前年度比14.1%増）、てん菜糖が104万トン（同22.4%増）と、ともに増加し、全体で1000万トン（同15.1%増）とかなりの増加が見込まれている。特に、広西チワン族自治区の甘しゃ糖生産量は600万トン（同17.4%増）、内モンゴル自治区のてん菜糖生産量が47万トン（同65.5%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

さらに、中央政府は1月、備蓄砂糖約25万トンを国内企業へ売り渡した。これにより、2016年10月から4回の入札が実施され、1月時点で合計約65万トンが企業に売り渡されたこととなる。CSAは2016/17年度に200万トン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいる。このため、砂糖輸入量は、415万トン（同33.1%減）と大幅な減少が見込まれている。

また、政府は、2016年9月から開始した砂糖の輸出国によるダンピング疑惑の調査期間について、当初予定より1カ月長い、5月22日まで延長すると発表した。本調査は、海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じていることから開始したものであり、調査対象は、輸入量が急増した2011年以降で、粗糖の上位輸入先国であるブラジルおよび豪州ならびに精製糖の主な輸入先国である韓国などが対象国となっている。

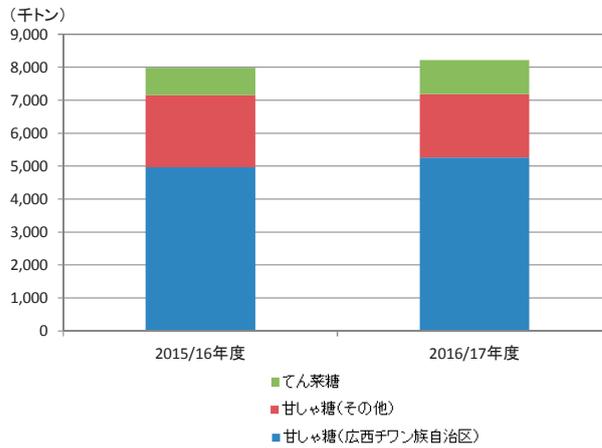
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (3月予測)	2016/17 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0	
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	10,804	10,688	13.0
	輸入量	4,054	5,354	6,199	4,015	4,150	▲ 33.1
	消費量	16,150	16,600	17,065	17,250	17,250	1.1
	輸出量	51	64	167	83	83	▲ 50.5
	期末在庫量	7,141	7,305	5,731	3,217	3,237	▲ 43.5
	期末在庫率	44.2	44.0	33.6	18.6	18.8	▲ 44.1

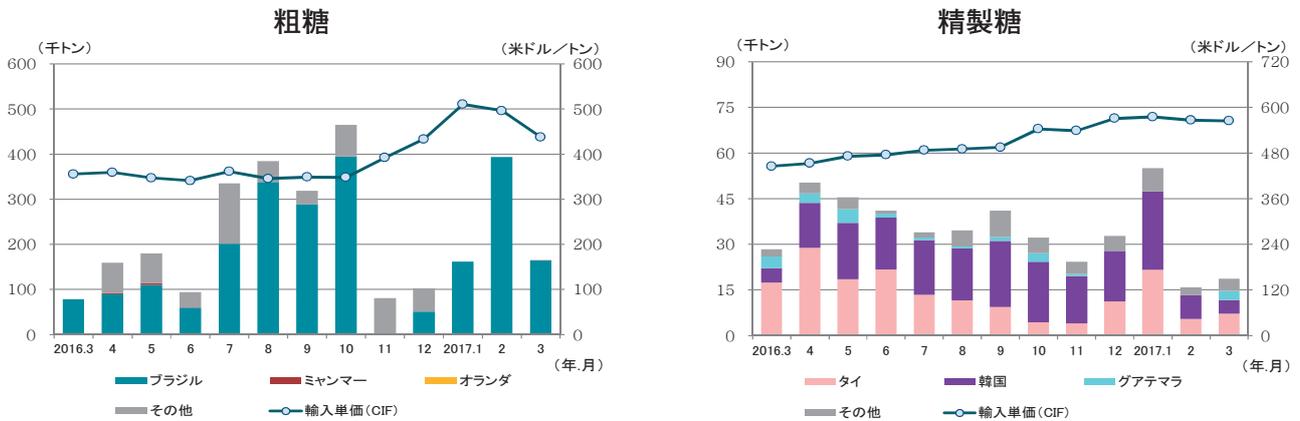
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, April 2017]

図4 中国の砂糖生産実績（10月～翌3月の生産量）



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）
生産量：1億1218万トン（同6.7%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1707万トン（同12.7%増）
輸入量：320万トン（同14.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1218万トン（同6.7%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表5）。2017年10月以降の生産割当の廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっているとみられる一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られている。記録的な生産量となった

2014/15年度に比べ、春先の低温や降雨のため単収が低下すると見込まれているものの、前年度と比べて産糖量の増加が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1707万トン（同12.7%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖の増産に伴い、砂糖輸入量は、320万トン（同14.1%減）とかなりの減少が見込まれている。（表5）

一方、欧州委員会が2016年12月下旬に公表した2016/17年度の生産予測によると、砂糖生産量は精製糖換算で1666万トン（同11.6%増）とかなり増加し、砂糖輸入量は350万トン（同0.3%増）と前年度並みにとどまると見込まれている。

表5 EUの砂糖需給の推移

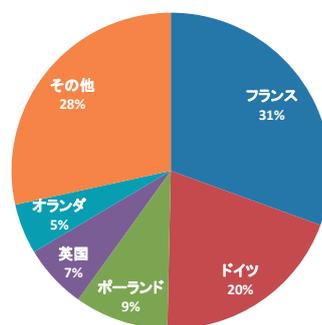
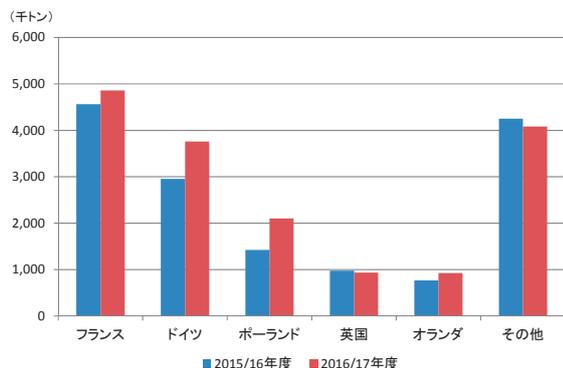
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (3月予測)	2016/17 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8
てん菜生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	112,184	6.7
砂糖	生産量	17,123	19,147	15,146	17,069	12.7
	輸入量	3,944	3,456	3,725	3,150	▲ 14.1
	消費量	19,286	19,245	18,972	18,954	▲ 0.1
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,405	▲ 0.1
	期末在庫量	8,799	10,599	8,993	8,853	▲ 2.1
	期末在庫率	45.6	55.1	47.4	46.7	▲ 2.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, April 2017」

注：期末在庫量は、非食用などを含む。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2016年12月時点での予測値。

注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。

注4：生産割合は2016/17年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2017年4月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカを報告する。

豪州

2016/17年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比3.2%増）

生産量：3550万トン（同1.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：523万トン（同3.3%増）

輸出量：400万トン（同3.8%減）

2016/17年度の砂糖生産量はやや増加するも輸出量はやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3550万トン（同1.9%増）とわずかな増加が見込まれている（表6）。

サトウキビの増産に加え、製糖歩留まりの向上も見られることから、砂糖生産量は523万トン（同3.3%増）とやや増加が見込まれている。一方、中

国向けの減少などに伴い、輸出量は400万トン（同3.8%減）とやや減少が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)は3月7日、2016/17年度および2017/18年度の生産見通しを発表した。これによると、2016/17年度の砂糖生産量は、収穫面積の拡大に伴うサトウキビ生産量の増加により、509万トン（同3.4%増）とやや増加が見込まれ、また、砂糖輸出量も429万トン（同3.6%増）とやや増加が見込まれている。2017/18

年度も、引き続き、収穫面積の拡大および生産量の増加が予想されることから、砂糖生産量は516万トン（同1.5%増）とわずかな増加が予想されているが、砂糖輸出量は、430万トン（同0.2%増）にとどまると予想されている。

3月28日、過去6年で最大勢力のサイクロン「デビー」が豪州北東部を直撃し、マッカーイなどのサトウキビ主要生産地域を襲った。サトウキビの収量低下のほか、倒伏などにより、収穫作業経費の増加が危惧されている。サトウキビ生産者団体Canegrowersが同月31日に発表した第1回被害状況調査によると、クイーンズランド（QLD）州のサトウキビの損失額は、1億5000万豪ドル（132億円〈3月末日TTS：1豪ドル＝88円〉）と見込まれている。QLD州政府は4月2日、今回のサイクロン被害を受けた生産者を支援するため、緊急的な作物の移送経費への補助（上限5000豪ドル〈44万円〉）や低利融資（上限25万豪ドル〈2200万円〉）などを措置すると発表した。

また、2017/18年度以降の新たな輸出契約に関し、連邦政府は4月5日、「砂糖産業に対する強制行動規範」を施行した。同規範は、サトウキビ生産

者、製糖企業および砂糖輸出企業の3者間の紛争仲裁手続きについて規定したものである。連邦政府は、今回の規範施行の背景として、QLD州の砂糖輸出産業が同州で最も重要な産業であり、持続的な発展と効率的な管理が期待されながら紛争が続いていたことから、「QLD州砂糖産業法」^(注)などの既存の枠組みを早急に補う必要があったことを挙げている。これによって、QLD州の砂糖産業で、およそ2年にわたり続いていた紛争が収束に向けて一歩前進した。

これに対し、豪州砂糖製造事業者協会（ASMC）は4月5日、交渉が難航していた製糖企業1社がQLD州砂糖公社（QSL）と3月2日に大筋で合意に達していたにもかかわらず、連邦政府が協議もなく「手荒い」規制を行使したとして、非難する声明を発表している。

^(注) 2015年12月、実質的に一元輸出を継続していたQLD州砂糖公社（QSL）以外の砂糖輸出企業を生産者が選択できるよう改正された。この改正に伴い、QSLを選択する生産者ともサトウキビ供給契約（CSA）を結ぶことにした製糖企業がある中、最大手の企業は直接輸出に固執し、交渉が長期化していた。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (3月予測)	2016/17 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	329	363	381	393	393	3.2	
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	35,410	35,500	1.9	
砂糖	生産量	4,306	4,780	5,067	5,230	5,233	3.3
	輸入量	159	170	76	110	110	45.3
	消費量	1,345	1,350	1,350	1,355	1,355	0.4
	輸出量	3,066	3,687	4,152	3,995	3,995	▲ 3.8
	期末在庫量	1,162	1,074	716	577	708	▲ 1.0
	期末在庫率	86.3	79.6	53.0	42.6	52.3	▲ 1.4

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, April 2017]

タイ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）
生産量：1億436万トン（同11.0%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1030万トン（同2.7%増）
輸出量：729万トン（同6.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに増加、 輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、単収の増加が見込まれることから、生産量は1億436万トン（同11.0%増）とかなりの増加が見込まれている（表7）。

しかし、砂糖生産量は、長引く干ばつの影響により、特に新植サトウキビの生育不良が見られることなどから、1030万トン（同2.7%増）とわずかな増加にとどまると見込まれている。また、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、729万トン（同6.5%減）とかなりの減少が見込まれている。

一方、タイ農業協同組合省農業経済局が先ごろ発表した主要農産物の生産見通しの中で、2016/17年度のサトウキビ収穫面積は、政府による生産者への適地適作の奨励や製糖企業によるサトウキビ栽培への転作促進により、145万ヘクタール（同1.8%増）とわずかな増加が見込まれている。また、生産量は、1億515万トン（同11.7%増）とかなりの増加が見込まれている。これは、サトウキビ生産者の肥培管理などの技術の向上により、単収の増加が見込まれていることなどが要因とされる。砂糖生産量も1094万トン（同11.8%増）とかなりの増加

が見込まれており、これに伴い、輸出量も844万トン（同17.4%増）と大幅な増加が見込まれている。

さらに、政府は、2017/18年度からの適用を目指し、砂糖産業関連法の改正（注1）に向けた手続きを開始した。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式や販売割当（注2）は廃止され、政府が設定している国内砂糖価格は固定制から変動制に移行するものとみられる。なお、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）（注3）によると、改正法は、遅くとも2018年4月までに施行される。

（注1）タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補てん金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。

（注2）タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

（注3）タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

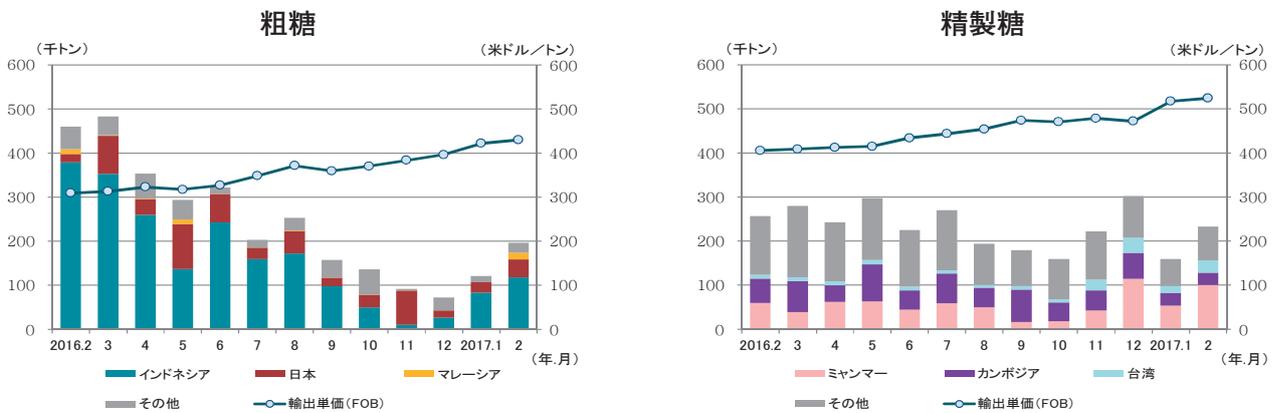
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (3月予測)	2016/17 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	104,363	104,363	11.0
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	10,000	2.7
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	7,259	▲ 6.5
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	3,749	▲ 11.0
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	107.1	▲ 11.0
					114.7	

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, April 2017」

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

南アフリカ

2017/18年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：31万ha(前年度比5.9%増)

生産量：1719万トン(同5.9%増)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：180万トン(同5.9%増)

輸出量：30万トン(同27.6%増)

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに減少、輸出量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度(4月～翌3月)のサトウキビ収穫面積は、29万ヘクタール(前年度比4.2%減)、生産量は1623万トン(同4.9%減)と、ともにやや減少が見込まれている(表8)。

砂糖生産量は、製糖歩留まりの回復がみられることから、170万トン(同1.6%減)とわずかな減少にとどまると見込まれている。2015/16年度から

砂糖の消費量が生産量を上回る状況が続き、在庫量が減少していることから、輸出量は24万トン(同23.3%減)と大幅に減少し、過去最低を記録すると見込まれる。

2017/18年度の砂糖生産量はやや増加、輸出量は大幅増の見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、31万ヘクタール(前年度比5.9%増)、生産量は1719万ト

ン（同5.9%増）と、ともにやや増加が見込まれている。2014/15年度から続く干ばつの影響により、2017/18年度以降もサトウキビおよび砂糖生産への影響が懸念されているものの、平年並みの降雨が予想され、沿岸地域での適度な降雨によりサトウキビが順調に生育し、製糖歩留まりの回復が見込まれることから、砂糖生産量は、180万トン（同5.9%増）とやや増加が見込まれている。これに伴い、輸出货量も30万トン（同27.6%増）と大幅に増加するもの

と見込まれている。

また、財務省は2月22日、4月に導入予定の糖類を含む飲料への課税方針の詳細を発表した。これによると、課税対象は、100ミリリットル当たり4グラム以上の糖類を含む飲料で、この飲料に含まれる糖類10グラム当たり0.21ランド（2円〈3月末日TTS：1ランド=9.86円〉）が課税されることとなっている。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (1月予測)	2016/17 (4月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	325	325	302	289	289	▲ 4.2	306	5.9	
サトウキビ生産量	18,000	17,239	17,067	16,234	16,234	▲ 4.9	17,188	5.9	
砂糖	生産量	2,485	2,239	1,728	1,700	▲ 1.6	1,800	5.9	
	輸入量	812	474	470	535	705	50.0	475	▲ 32.6
	消費量	2,255	2,200	2,220	2,215	2,215	▲ 0.2	2,200	▲ 0.7
	輸出货量	796	769	307	204	235	▲ 23.3	300	27.6
	期末在庫量	889	633	304	121	259	▲ 14.8	34	▲ 86.8
	期末在庫率	39.4	28.8	13.7	5.5	11.7	▲ 14.6	1.6	▲ 86.7

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, April 2017]